

つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年のご挨拶

新年 明けましておめでとうございます。

3年余りにわたる新型コロナ感染という社会全体そして医療界において極めてインパクトの大きな「災害」が通り過ぎた後、様々な変化が起きています。

身近で一番大きなものは、人とのコミュニケーションで IT 化が進んだことがあります。日常生活においても SNS の存在が大きくなったように、医療の世界でも同様で、院内でのミーティングでは集合が主流ですが、院外の施設との会議では Web ないしハイブリッドが主流になってきています。その功罪はともかく逆戻りすることはないと思います。

そして、コロナにより少子高齢化が進んだといわれており、神戸市の中でも少子高齢化・人口減少が進んでいる地域にある当院にとっては今後の診療体制を考えていくうえでも大きな関心事です。

一方、地域の足元を見ると北区を貫く神戸電鉄の主要駅を中心とした再開発が進んでおり、とくに鈴蘭台、北鈴蘭台の駅近傍には公共施設や大規模な集合住宅が建設されつつあり、地域の活性化が期待できます。

2025年の干支は乙巳（きのとみ）です。

乙（きのと）は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされており、そのため乙巳（きのとみ）の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。

この動きの激しい年ではありますが、地域医療支援病院であることを基本方針としつつ、診療体制を改革・整備してゆくことで地域医療への貢献と病院の成長につなげたいと考えております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 松本 圭吾

有井 一郎：精神科



医師になって35年。当院に赴任して23年が経とうとしています。早いものです。日々それなりに衰えを感じていますが、まだまだ頑張ってる所存です。皆さんよろしく申し上げます。

田谷 俊彦：循環器内科



医師になり11年が経過しました。この10年間で循環器内科を志し、結婚し、子どもが2人生まれ人生で最も変動のあった10年でした。若手の研修医を見て、勝手に中堅のつもりでいましたが、ある上司からまだまだ若手だよと言われてました。初心を忘れず引き続き精進していきたいと思っております。

木田 遼太：循環器内科



年齢36歳。いつ人生が終わっても良いように、後悔のない行動、選択をしていきたいと考えています。中々そうは言っても上手くない日々があります。それもまとめて自分として受け止め、他者志向に生きられるようにがんばりたいです。

年男ご紹介



近隣医療機関のご紹介

いしだクリニックきたすず

〒651-1142 神戸市北区甲栄台2丁目3-1 Kitasuzu Haus 2F
TEL : 078-983-7711 FAX : 078-983-7712

診療科目：
泌尿器科
腎臓内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:30~12:30	●	●	●	●	●	★	×
15:00~18:00	●	●	●	×	●	×	×

★ 土曜日は9:00~13:00
休診日：日曜日・祝日 受付は診療時間終了の15分前までとなっております。



宮崎 彰 院長

2024年6月に開院した「いしだクリニックきたすず」の院長、宮崎 彰と申します。当クリニックの場所は、神戸電鉄「北鈴蘭台駅」から徒歩3分程度、マザームーンカフェの2階です。提携の駐車場もございますのでお車でのご来院いただけます。

私は、今まで神戸大学病院および兵庫県下の基幹病院で排尿障害や尿路感染症から泌尿器がんに対するロボット手術まで泌尿器科専門医として多くの患者様を診療してまいりました。泌尿器科専門医が毎日診療しているクリニックが非常に少ない神戸市北区において、その経験を少しでも地域の皆様に還元できるように頑張りたいと思っております。



また、当院では泌尿器科疾患だけではなく、腎機能の低下や尿蛋白の相談など腎臓内科の診療も行っております。

毎週月曜日の午前および第1, 2, 3木曜日は泌尿器科専門医であり、かつ腎臓専門医でもある石田先生の診察となっております。一般内科の診療も対応いたしますので、どうぞお気軽にご来院ください。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 神戸中央病院 第21回 市民医療セミナー

入場無料
(申込み不要)



知ってほしい 分かってほしい 認知症の現在

～専門医師・看護師からの大切なメッセージ～

日時：令和7年2月8日(土) 13:00 開演

会場：すずらんホール(神戸市北区鈴蘭台西町1丁目26-1)

プログラム：講演会 2階「大ホール」

第1部 市民医療セミナー

- 13:00 開会の挨拶 病院長 松本 圭吾
- 13:05 「認知症の症状と治療～新薬の情報を踏まえて～」 精神科 診療部長 有井 一朗
- 13:35 「認知症の備えから 認知症と診断された後のケアについて」 認知症ケアチーム 地域医療連携室 入退院支援 副看護師長 大山まどか
- 14:05 閉会の挨拶 地域医療推進部 部長 岡本 将裕

第2部 北区在宅医療・介護セミナー

「認知症の人にやさしいまち 北区」

- 14:30 開会の挨拶 北区医師会会長 兼 北区医療介護サポートセンター長 入江正一郎
- 14:35 講演「認知症神戸モデルって何? どんな支援を受けられるの?」 福祉局高齢福祉課 認知症担当課長 渡辺 正樹
- 15:15 講演「認知症になっても自分らしくすごすために 利用できるサービスについて」 北区ケアネットワーク会議 ケアマネジャー連絡会・主任ケアマネジャー連絡会
- 15:25 講演「北区の認知症の取り組みについて」 北区役所 保健福祉課
- 15:30 閉会

相談コーナー

●12:15~12:55 ●14:05~14:25

薬剤師・作業療法士・管理栄養士・老人保健施設・健康管理センター



お越しの際は公共交通機関をご利用ください

新任医師のご紹介



整形外科 大西 慎太郎

令和6年11月より当院へ赴任した大西慎太郎と申します。整形外科医として富山県での僻地・超高齢地域での診療経験の後、ここ数年は兵庫医科大学および関連病院にて膝関節温存手術、スポーツ整形外科を中心に診療を行って参りました。

スポーツ選手・愛好家の靭帯・半月板・軟骨損傷の治療や、中高年の患者さんの変形性膝関節症に対し膝周囲骨切り手術と関節鏡治療を組み合わせることで、ご自身の膝関節を残す治療を専門としています。

これまでの診療で得た知見などを地域の皆さんに還元しつつ、老若男女問わず、困った時に気軽に相談できる整形外科医を目指して研鑽していく所存です。

当院に赴任してから約1ヶ月が経ちましたが、コメディカルの方々の活気があり、職種を問わず連携がとりやすいように思います。今後も多職種で連携を深めながら、この地域の患者さんが安心して診療を受けていただければ幸いです。



眼科 岸本 和樹

はじめまして。令和6年11月より当院へ赴任した眼科医の岸本和樹と申します。

眼科医として兵庫医科大学病院勤務を始め、神戸掖済会病院、姫路の井野病院で勤務しておりました。

これまで白内障、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など疾患治療に加え、ドライアイやアレルギー性結膜炎、眼精疲労といった日常的な目のトラブルにも幅広く対応してまいりました。

さらに専門的な加療が必要な患者様に関しては他の専門医療機関との連携を図り、必要に応じて迅速に加療を行うことができるよう体制を整えております。

赴任して1ヶ月になりますが、視能訓練士、看護師、クラークの皆様と非常に連携がとりやすい環境で、スムーズに診療を進めることができています。

今後も患者さん一人一人に最適な医療を届けるために、チーム全体での連携を深め、患者さんにとってよりよい医療環境を提供して参ります。これからどうぞよろしくお願い致します。



緩和ケア病棟について看護相談会を開催しました

7階西病棟(緩和ケア) 師長 石橋 昌代

2024年10月21日にJCHO神戸中央病院の玄関フロアで看護相談会を開催しました。皆様から質問の多い緩和ケア病棟に入院するにはどうしたら良いのか、緩和ケアで受けられるケアについてお話をさせて頂きました。

緩和ケア病棟に入院するには通院中の医療機関から紹介して頂き受診日をお知らせしています。外来は月水金の完全予約制ですが臨時外来も適時させて頂いています。

私たちは、その人らしく『よりよく生きる』ことを大切に、病気に伴う症状を緩和し苦痛を和らげる治療やケアを行っています。また、ご希望に沿って療養場所を一緒に考えていきます。

コロナ禍を経て長らく面会を制限していましたが、2024年11月25日から制限を無くし、いつでも面会していただけるようになりました。

これからも、患者さんやご家族の思いに寄り添ったケアの提供に努めてまいります。





メデイカル ライン

《医療機関向け》

総合内科 部長 亀崎通嗣



透析患者のフレイル予防について

我が国の透析患者は年々増加しており、2023 年末の調査では約 34 万人に達しました。透析患者の平均年齢は 70.09 歳と高齢化が進み、70 歳以上が全体の 57.9% と過半数を占めています。加齢による影響に加え、透析患者は透析治療に伴うアミノ酸喪失や慢性炎症にも曝されており、筋肉量が減少しやすい環境にあります。しかし、週に 1 度も運動をしない透析患者の割合は 63% 以上にも及び、下肢筋力が低下して歩行ができなくなり、施設に入所するケースが当院でも散見されるようになってきました。このため、当科では運動療法を行うことにしました。血液透析開始 30 分後から透析前半の時間帯でストレッチから始め、その後セラバンドを用いた筋力増強運動を行っております。理学療法士と協議して作成した、心臓に大きな負担をかけない強度の運動メニューに沿って、透析室看護師がベッドサイドで運動療法のトレーナーをしてきています。体力がついてきたことが分ると、トレーニング自体が楽しくなり、非透析日でも自主的に運動療法をされている患者様を最近では見かけるようになってきました。運動療法の結果、患者様とスタッフのコミュニケーションも増え、フレイルで施設転院されるケースが減少してきたように思われます。上記の活動を通して、透析室では下肢筋力が低下しやすい入院治療よりも自宅での生活が維持できる外来治療を重要だと感じるようになってきました。そう考えると、腹膜透析は自宅で自ら行う透析療法であり、当院への受診も血液透析患者が 12 回 / 月なのに比し、1 ~ 2 回 / 月と少なく、夜間の寝ている間に治療ができるため、日中はこれまでと同様に仕事や自分の時間が持てます。当科では腹膜透析の導入時も 1 泊 2 日で早期に退院とし、その後十分に機械の操作に自信が持てたら、外来にて腹膜透析を本格的に開始するようにしており、高い患者満足度を維持できております。振り返ってみると、患者様のためにしてきたことが透析室看護師のやる気にも繋がっていることが分かり、医師として非常に嬉しく感じています。今後も透析患者様が自分らしく、楽しく生きがいを持って生きることを切に願い、自分の診療を続けていきたいと考えています。



セラバンドを用いた筋力増強運動



退任医師のお知らせ

眼 科 : 古川 達也

血液内科 : 埜中 広一